



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 297

2021/12/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

GREEN COLUMN

01. テントウムシのイメージ

02. 死人の山ライクンヌプリ



今月の一枚



「おむすび山」

表紙写真・文／鬼丸和幸

美幌峠を越えて間もなくすると…個人的に好きな“おむすび山”が現れます。畑に囲まれた小さな三角形をした山（丘）ですが、全面広葉樹で覆われていることもあり、四季を通じて美しい姿を見せてくれます。晩秋の頃、葉が落ちた広葉樹の木々の幹が、網目のように重なり合う姿が一段と美しく、いつも誰もいない小道で、山を見ながら、“おむすび”を食べるのが楽しみとなりました。

Event. 今月のイベント

企画展「おひろめコレクション展」 12月4日(土)～1月16日(日)

モノ作り講座「フェルトでブローチを作ろう」 12月11日(土)

プチ工房「しめ縄飾り」 12月24日(金), 25日(土)

Information. 参加者募集

モノ作り講座「フェルトでブローチを作ろう」

●12/11(土) ①10:00 開始, ②14:00 開始, 所要時間 90 分(1 個), 作品ができ次第終了 ●美幌博物館 1 階 講座室 ●参加費 300 円(1 点), マスク, 必要な方は眼鏡 ●久保田結衣(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(-12/10)。中学生以上～一般 12 名で締切。小学生の参加も可能。小学生は保護者の同伴が必要。定員に達しない場合は当日参加も可能です。

プチ工房「しめ縄飾り」

●12/24(金), 25(土) ①10:00 開始, ②11:00 開始, ③14:00 開始, ④15:00 開始, 所要時間 30 分(1 個), 作品ができ次第終了 ●美幌博物館 1 階 講座室 ●参加費 300 円(1 点), マスク ●町田善康(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(-12/22)。各回定員 12 名で締切。小学 3 年生以下は保護者の同伴が必要。定員に達しない場合は当日参加も可能です。

プチ工房「スノードームを作ろう」

●1/7(金), 8(土) ①10:00 開始, ②13:00 開始, ③15:00 開始, 所要時間 60 分(1 個), 作品ができ次第終了 ●美幌博物館 1 階 講座室 ●参加費 400 円(1 点), マスク ●八重柏誠(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(-1/6)。各回定員 12 名で締切。小学 3 年生以下は保護者の同伴が必要。定員に達しない場合は当日参加も可能です。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため, 発熱がある, あるいは体調が優れない方ので参加はお控えください。各イベントは, 内容の変更や中止となる場合がございます。また状況により, 一時休館となることもございます。

12月の休館日

6日, 13日
20日, 27日
30日, 31日

1月の休館日

6日まで
11日, 17日
24日, 31日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

テントウムシの イメージ

写真・文／鬼丸和幸



一段と寒さも厳しくなってきました。いよいよ、冬の到来ですね。それでも、お日様が出ると、ポカポカと暖かい陽気が感じられます。こんな時、決まってドアのすき間を見ると、たくさんのテントウムシが、越冬のために集団で集まっている様子を見ることができます。

テントウムシは、英語で“レディバード”（聖母マリアの鳥）と呼ばれますが、「レディ＝聖母マリア」を意味していることから、特に欧米ではテントウムシが神聖視され、大切にされてきました。また、赤い体色が、聖母マリアが着ている赤いマントを連想させることもあり、幸運グッズとして販売されているなど、広く一般にも人気があります。

一方、日本ではと言うと、テントウムシという名前が初めて出てきたのは、江戸時代後期だと言われていま

す。テントウムシを捕まえて、指にはわせると、やがて指の先から太陽（天道）に向かって飛んでいくという性質から、“天道虫”と呼ばれるようになったという説があります。テントウムシは、特定の季節にのみ現れる存在でもなく、ホタルのように暗闇で光するという情緒性もなく、チョウのように美しく雅な存在でもないため、決して関心が持たれる存在とは言えず、どちらかというと地味な存在として受け止められてきたようです。しかし、その形態（丸い形、体の大きさの割に手足が短い、目が大きい、赤い）が、“かわいさ”を醸し出していることで、最近ではキャラクターグッズなどで利用されたりして、人気を博しているという面もあります（写真は、テントウムシを象った帯留です）。

死人の山 ライクンヌプリ

写真・文／八重柏誠



死人の山と呼ばれる不吉なアイヌ語地名が美幌にはあります。その名もライクンヌプリ。昭和47年に刊行された美幌町史によると、「豊岡の沢を上りつめた端野に通ずる小さい沢に臨む小丘で、リンナイチャシの前衛陣地だとも言われ、ブンキ(番人)を置いて外部との警戒にあたっていたといわれる。北見アイヌが山を超えて侵入した時、美幌アイヌがここで勇戦し死人の山を築いて、敵を撃退させたことからライクンヌプリ(死人の・山)と名付けられた。」と記されています。ライクンヌプリの位置は、JR石北線の緋牛内トンネルから南に約1kmの場所と考えられており、国土地理院の25,000分の1図にある標高111.6mの小高い丘がそれにあたるとされています。

ライクンヌプリの伝承には、周辺に石器を作る人がいて様々な石器が作ら

れているが、なぜ作るのかわからないし、どんな人が作っているのか誰も見たことがないが、その場所には今も黒曜石が見られるとあります。これは周辺に遺跡が立地していることを物語っているように感じます。

近年、農地整備事業に伴って、ライクンヌプリとされる丘の周辺で所在調査を実施したのですが、黒曜石はあまり見られない状況でした。一方、トンネルから南西に約3kmのところには、この周辺で最も高さのある標高200.7mの丘があり、その南側には豊岡7遺跡が隣接しています。遺跡からは旧石器時代と縄文時代中期頃の石器が出土しており、ライクンヌプリの周辺で石器作りが行われていたという伝承にも一致するように感じます。

ライクンヌプリがどこにあったのか、今後も検討が必要なのかもしれませんね。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・八重柏誠・久保田結衣

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253-4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



1ヶ月限定で公開した美幌の歴史上映会。とても好評なのは嬉しいのですが、動画を編集する私のPCが悲鳴をあげています。元々、限界を感じていたのもあって、思い切って新しいPCを買いました。新しいPCはサクサク動いて快適ですね。
(八重柏)